

基礎研究医養成活性化プログラム  
取組の概要と推進委員会からのコメント

		整理番号	4
申請担当大学 (連携大学)	名古屋大学(計6大学) (名古屋市立大学、岐阜大学、三重大学、浜松医科大学、愛知医科大学)		
プログラム名	人体を統合的に理解できる基礎研究医の養成		
事業推進責任者	門松 健治(名古屋大学大学院医学系研究科長)		
取組の概要			
<p>東海地区の医学部を有する6大学が連携し、ヒトの病態を俯瞰できる基礎研究医および研究マインドを持った病理学・法医学研究医を養成する。本プログラムは①コア能力獲得(基礎的な病理診断・法医鑑定技術の習得)、②6大学の特徴を生かした専門能力の獲得(高度専門的な病理診断・法医鑑定技術・研究能力の理解)、③研究マインド涵養(プログラムが指定するカンファレンス、研究会等への参加・発表)、④合同研究発表会(D4学生による研究成果の発表)の4つのカリキュラムで構成される。それぞれにポイントを設定し、4年間で獲得したポイントと合同研究発表会での発表内容を評価し修了証を発行する。ポイントの半分は自大学以外で獲得する必要がある、これにより1大学では教育できない多様かつ広汎な大学院教育が可能になる。さらに学生・教員の交流や情報交換を促し、連携大学全体の研究・教育をボトムアップする。</p>			
推進委員会からのコメント      ○:優れた点等、●:改善を要する点等			
<p>○非常に多彩なコースを計画の中に含んでおり、人体を総合的に理解出来る基礎研究医の養成プログラムとして評価できる。</p> <p>○既存の基礎研究医養成の取組で構築されたプラットフォームを活用して、病理診断・法医鑑定能力を進化させる内容のコンテンツを取り入れていくプログラムは、全く新しい発想によるものであり、評価できる。また、ポイント獲得法を工夫し、交流を促進している点も評価される。</p> <p>○参加大学間の交流、共通のプログラムの設定が現実的であり、事業のスムーズな遂行が期待できる。</p> <p>○種々の既存のカンファレンスを用いての研究マインド育成は実現性が高く評価できる。</p> <p>●病理、法医学への興味を喚起し裾野を広げる可能性は高いが、病理医、法医増加への直接的効果については不明確である。</p> <p>●若い研究医を引き付けるようなプログラムの魅力を高める工夫が求められる。</p> <p>●東海地区全体で連携して指導を行うことで、地区全体の研究・教育を活性化するとのことであるが、事業と研究・教育の活性化との具体的な関連について不明確である。</p>			